

乗雲

寺報

第103号

道元禪師御一代記押絵 ③

剃髮得度



道元さまは比叡山横川首楞嚴院の般若谷千光房にお移りになり宗教の勉強を始められた。建保元年（西暦1213年）十四歳の時、天台座主広円僧正について出家得度され、建保五年、比叡山の修行を終える。その後、臨済宗建仁寺の門をたたき、栄西の弟子、明全に師事して本格的な修行生活に入られた。

柔軟心（じゆつなんしん）

道元禪師は貞応二年（1223）に宋（現在の中国）に渡り、修行を続けておられました。その折、お師匠さまである天童如浄禪師から「柔軟心」という言葉をいただいで戻られました。

「柔らかな心で生きる」これが道元禪師の得たものでした。私たちは年を重ねてくると、いろんな経験から先入観や思い込みで物事を判断するようになりがちです。またかたくなに自分の意見を通そうとして譲りません。柔軟心とは、身も心も一切の自分の物差しから解き放たれた状態のことであり、何事にもとらわれない、全てを平等に受け入れる柔らかく優しい仏さまの心を言います。

幼な子の次第次第に知恵付きて、仏に遠くなるぞ悲しき」という古人の歌がある。赤ちゃんはお腹が空いたらお乳が欲しいと泣き、満たさ

H30.12.1 発行
編集人
〒959-2646 新潟県胎内市西栄町 2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560
広厳寺
住職 神田英俊
メール
otera@kogonji.jp

れば眠ります。ただ柔らかかに無心に生きていくだけです。まさに仏心のまま、もって生まれた本能そのものです。それが段々と成長していくにしたがつて知恵が出てきて、本来の無邪気さが無くなり、自我が芽生えてくる。次第に仏さまの心が隠れてしまいます。自分中心に物事を考えることは生きて行く上で必要なことではありますが、自我に執着することなく、他のことも何事も受け入れていく柔軟な気持ちが大切です。

宗教詩人である坂村真民さんに、子を抱いていると行く末のことが案じられる「良い人にめぐりあってくれとおのずから涙がにじむ」という詩があります。私にも孫が授かりました。いのちの誕生、その不思議に感動しました。この子はこれからどういふふうに育っていくのだろうか、どんな大人になっていくのだろうかかと楽しみでもありません。

「いつまでも柔らかい心で、素直さを忘れない子」と願っています。

平成三十一年度年回表

「回忌」	「没年」
一周忌	平成三十年
三回忌	平成二十九年
七回忌	平成二十五年
十三回忌	平成十九年
十七回忌	平成十五年
二十三回忌	平成九年
二十七回忌	平成五年
三十三回忌	昭和六十二年
五十回忌	昭和四十五年
百回忌	大正九年

▼平成三十一年度の年回表です。正当各家には十一月中旬に通知していただきますのでご確認ください。

▼日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。

▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちようど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年目が七回忌、丸十二年目が十三回忌となる。